

○一般社団法人 日本森林学会

2016 年度第 4 回（通算第 459 回）理事会・連携学会長合同会議 議事録

日時：2016（平成 28）年 12 月 22 日（木）13:00～17:30

場所：日林協会館 3 階 大会議室

開催者：中村太士

出席者：会長）中村太士，副会長）黒田慶子，理事）堀靖人，竹中千里，曾根晃一，丸山温，福田健二，太田祐子，宮本麻子，正木隆，山本美穂，佐藤宣子，大久保達弘，井出雄二，小島克己，井上真理子，監事）柿澤宏昭，連携学会長）柿澤宏昭，酒井秀夫，松村直人，森貞和仁，連携学会長代理）立川史郎，寺下太郎，主事）細田和男，大橋伸太，松浦俊也，小長谷啓介，竹本太郎，橋本昌司，花岡創，宮本和樹，事務局）稲村崇子，オブザーバー）箕輪富男（林野庁）

議長：中村太士

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下の通りである。

1. 収入支出内規の改正

JFR の出版社を現在の Springer 社から、海外法人である Taylor & Francis 社に変更するのに伴い、超過ページ代が非課税となることに対応した収入支出内規の改正案が竹中理事から提案され、提案の通り承認された。

2. Instructions for Contributors (Journal of Forest Research)の改定

出版社を T&F 社に変更することに伴う著作権関係の記述の改定案が福田理事から提案され、提案のとおり承認された。T&F 社から出版する 22 巻 1 号以降の著作権は学会のみが所有し、転載許可申請は、RightsLink の Copyright Clearance Center から行うことになった。

3. 「森林科学」投稿要領および執筆要領の改定

投稿要領および執筆要領の改定案が太田理事から提案され、提案の通り承認された。A4 版への変更に伴い 1 ページ当たりの目安字数が図表 1 枚（500 字相当）を含め 2000 字、また文献引用における欧文誌名の略記法は日林誌に準じることになった。

4. ウェブサイトにおける SSL 通信の導入

入会・異動フォームで送信される個人情報の保護などセキュリティの強化のため、SSL 通信の導入が宮本理事から提案された。共用 SSL 証明書と独自 SSL 証明書の得失や具体的費用などを比較し、2017 年度の予算に盛り込む方向でさらに検討することになった。

5. 平成 29 年度日本森林学会各賞受賞者の決定

表彰委員会，JFR 編集委員会，日林誌編集委員会での選考経過と受賞候補者が正木理事，福田理事，丸山理事からそれぞれ報告された。審議の結果，日本森林学会賞を谷尚樹会員（国際農林水産業研究センター），岩田隆太郎会員（日本大学），大園享司会員（同志社大学）に，日本森林学会奨励賞を田中憲蔵会員（森林総合研究所），篠原慶規会員（九州大学），小松雅史会員（森林総合

研究所)に、日本森林学会学生奨励賞を東若菜会員(京都大学)に、日本森林学会功績賞を黒丸亮会員(北海道立総合研究機構)に、それぞれ授与することを決定した。また、JFR論文賞をIan D. Thompsonによる論文(20巻5号423~429頁)およびAtsushi Tamuraによる論文(21巻1号43~56頁)に、日本森林学会誌論文賞を平岡 裕一郎・高橋 誠・渡辺 敦史による論文(97巻6号290~295頁)にそれぞれ授与することを決定した。

6. 表彰内規の改正

学会各賞の選考において、投票資格のない表彰委員には当該業績の選考資料を送付しないことを表彰内規に明記することが正木理事から提案され、提案の通り承認された。

7. 表彰規則の改正

学生ポスター賞の表彰を原則として大会期間中に行うように表彰規則を改正することが正木理事から提案され、提案のとおり総会の承認を求めることになった。

8. 第129回大会におけるランチョンミーティングの開催

山本理事から、第129回大会においてランチョンミーティング「海外滞在と研究者家族(仮題)」を開催することが提案され、提案のとおり承認された。

9. 理事会議事録の承認

2016年度第5回メール理事会、2016年度第6回メール理事会の議事録が承認された。

10. 次回理事会の開催について

次回理事会を4月に開催することが承認された。

報告事項:

その他、以下の報告が行われた。

1. 第128回大会の準備状況

曾根理事(第128回大会運営委員長)から、公開シンポジウム、表彰式、受賞者講演、懇親会、企業展示などの準備状況が報告された。懇親会の出席者がさらに増えるように会員に呼び掛けるが、ウェブ登録システム上の制約により、これからの申込は当日参加の金額になることが指摘された。小島理事(プログラム編成委員長)から、発表申し込み件数は858件で、部門により差異はあるが全体としては例年並みの申込件数であることや、研究発表スケジュールの案が説明された。また、発表部門の再編を議論するため学会企画として「林政・風致・経営、観光・レクリエーション、教育分野のあり方検討会」を開催することが報告された。同じく学会企画として「大学院進学とその後の進路の選択—どのように社会に出て行くのか—」、「論文執筆や審査の経験を共有しよう Part 2—回答書や英語論文を書いてみる—」について、それぞれ黒田副会長と正木理事から、企画の趣旨や準備状況について報告があった。

2. 各連携学会からの報告

各連携学会の会長または会長代理から、役員体制、総会・大会の開催、刊行事業、表彰制度、会員数の動向、財政状況などの報告があった。かつて北方林業会から発行され休刊となっていた「北

方林業」を、北方森林学会から再刊したことが報告された。各連携学会に比較的共通する課題として会員数の減少や、大会開催や事務局を各県持ち回りで担当することが難しくなりつつあることなどが指摘された。関連して堀理事から、学術大会の開催順番や学術大会運営規則に定められた手順、科研費（研究成果公開促進費）の発案順番についての確認があった。

3. 社会連携担当からの報告

黒田副会長（社会連携委員長）より、日本木材学会から英文誌の出版社変更の経緯について照会を受けたことや、JST ワークショップ「フューチャーグリーン」において12月12日、黒田副会長が森林学会として講演を行ったことが報告された。

4. 総務担当からの報告

堀理事から、理事の所掌変更に伴う定款等改正の検討状況、応用森林学会の発案により平成29年度JSPS 科研費（研究成果公开发表B）に日本森林学会として応募したこと、12月12日の日本農学会運営委員会の内容、日本学術会議会員および連携会員の推薦、会員数の動向等について報告があった。また第5回メール理事会で承認された公益法人PHNIX 研究発表支援事業への協力に関して、会員から受け付ける申請書の書式や選考基準について議論された。全額補助ではなく一部補助として対象者を増やすという考え方もある、学生・院生など自費参加によらざるを得ない会員のみを対象とすべき、次回からは大会発表の受付よりも前に公募する必要がある、などの意見があった。

5. 会計担当からの報告

竹中理事から、2015年監事監査指摘事項への対応として、不要となった銀行口座1口を解約したこと、また各誌冊子体の保管数や印刷部数の見直しを検討中であることが報告された。

6. 日林誌編集担当からの報告

丸山理事から日林誌の編集状況、Web of Science や Scopes への収載に向けた進捗状況が報告された。投稿数が伸び悩んでいること、特に「短報」が激減していること、「論文」の採用率が低いことが指摘された。

7. JFR 編集担当からの報告

福田理事から、JFR の21巻5号および6号を刊行し、21巻の発行ページ数は324ページであったこと、2016年の投稿件数は351件で受理論文数は40件（うち海外から13件）であったこと、T&F社への移行作業状況、特集「福島原発事故後の森林生態系での放射性セシウム動態：初期5年間の経験」について、 \times 切を延長して投稿を受け付け、2017年12月に刊行予定であること、などが報告された。

8. 森林科学編集担当からの報告

太田理事から、森林科学78号「特集：林業労働者のいま」を刊行したこと、また79号「特集：シカによる影響を低減するための最新知見と課題」および80号「特集：低コスト林業（仮題）」の編集を進めていることが報告された。

9. 広報・ウェブサイト編集担当からの報告

宮本理事から、メールマガジンの発行、アドレスリストの更新、ウェブサイトの更新および閲覧状況について報告があった。

10. 表彰担当からの報告

正木理事から、当学会から推薦した山浦悠一会員が農学進歩賞を受賞したことが報告された。また藤井一至会員も同賞を受賞し、11月25日の授賞式および受賞者講演に田中副会長が出席したことが報告された。また、正木理事から、森林学会各賞の表彰委員による投票方法について見直しの提起があった。これに対し、投票方式と審査委員会方式の得失、推薦書だけで判断せず各候補業績に評価委員を付ける、研究分野の特性へ配慮が必要、など様々な意見が出され引き続き議論していくことになった。さらに学生奨励賞への応募が少ないのは、業績の対象期間が狭く、博士課程3年次に発表した論文で応募できないからではないかという指摘があり、今後検討していくことになった。

11. 男女共同参画担当からの報告

山本理事から、林業女子会@栃木主催による上映事業「屋久島の森に眠る人々の記憶」を後援したこと、男女共同参画学協会連絡会による大規模アンケートに協力し、当学会からは229名の回答があったことが報告された。

12. 企画、林業遺産担当からの報告

佐藤理事から、2016年度林業遺産の推薦を12月末日〆切で受付中であり、翌1月に選定委員会を開催する予定であること、第129回大会で林業遺産をテーマとする学会企画をこれから検討することが報告された。

13. 学協会連携担当からの報告

大河内理事の代理として堀理事から、当学会がサポート連絡会に参加しているウッドデザイン賞の上位表彰式が12月8日に行われ、大河内理事が出席したことが報告された。また、日本森林学会、日本木材学会、土木学会の三者で構成している「土木における木材の利用拡大に関する横断的研究会」が、2017年3月6日のシンポジウムにおいて第2次提言の発表を計画しており、各学会の意見が求められていることが報告された。

14. JABEE 担当からの報告

大久保理事から、第6回メール理事会で審議されたようにJAFEE運営体制の見直しが進んでいること、任期2年間のうちでシンポジウム1回を企画する意向が示された。これに対し5月の定時総会と同じ日の開催が望ましいという意見があった。

15. 国際交流担当からの報告

平田理事の代理として堀理事から説明があり、10月25日に日本森林学会、Korean Forest Society および Chinese Society of Forestry のそれぞれ二者間で学術交流を推進するためのMOUを締結したことが報告された。

16. 国内研究機関連携担当からの報告

井出理事から、森林・林業関係試験研究機関の現状と研究推進上の課題に関するアンケート調査を56機関に送付したことが報告され、最終的な回収率は90%程度になるとの見通しが示された。

17. 中等教育連携推進担当からの報告

井上理事から、第128回大会における高校生ポスター発表の開催準備状況が報告された。国土緑化推進機構の助成によりポスター集の冊子を作成、大日本山林会の支援により受賞の楯を贈呈できることになったこと、林業大学校の紹介ポスターを掲示予定であることなどが説明された。

議事録作成者:堀靖人, 細田和男